第 2017-08 号

恵みと真理のニュース

2017 年 2 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私が私になったのは神様の恵みです

私は偶像崇拝をする田舎で生まれ育ちました。イエス様を知らないまま、母親の下で教会に一回も行った事もなかったです。兄弟の中でソウルに住んでいる姉が娘に伝道され教会に通い始めて私にも福音を伝えました。会うたびに"神様があなたを愛するよ。“世の何よりもまずイエス様を信じ受けいれるべきだと言われました。”しかし、その時には全く耳に入らなかったです。
どころが、神様の時になったのか、ある日から互いに約束をしたように人々から教会に行こうと伝道され、聖書を持って教会に通う方々がよく見えました。隣の店の執事をついて1995年10月に建物の地下にある教会に初めて行きましが続けて教会に通いたい心はなかったです。
その頃、恵みと真理教会の首区域長が私の 店に買い物に来て福音ニュースをくださいました。そうしながら心に決心がたたなかったですが、これから恵みと真理教会に来るとしました。すぐ、家に牧師と伝道師が教会に来られて説教と祈りをしてくださいました。そのように区域長に導かれ水曜日の礼拝に参席しました。説教の話を理解できないですが、多くの聖徒が集まって真面目な態度で聴き切に祈って大きい声で賛美する姿がとても感動的でした。
その以後、主日礼拝、区域礼拝、区域長の祈り会に参席して礼拝を捧げました。区域長の祈り会で神様の前で私が罪人であることを悟て主の救いの恵みを信じて受け入れました。また悔い改める祈りをする時には涙が流れて祈りをする時には聖霊を体験しました。すると次の礼拝の時間が待つようになって説教を聴くたびに大きい恵みを受けました。救われた喜びと感激と共に世の中が違うように見えました。熱心に信仰生活をすると教区長が区域長の職分を受けるように勧めました。しかし、私がまだ聖書知識が足りなくて教会生活に習うことが多いから区域長ではない職分を下さると熱心に奉仕すると話したら児童区域長を勧めました。恐れる心で職分を受けて神様に担える知恵と能力をくださいと熱心に祈りました。
旦那と共に事業場で働きながら、合間に子供を教える聖書を探して礼拝の準備をしました。児童区域長として礼拝を導き子供たちを教えながら聖書の知識も豊かになって私の信仰も深くなりました。神様は聖霊充満な恵みを下さって13年が超えるように児童区域長の職分を担えるようにしてくださり、子供達も神様の御言葉と愛の中でよく育つように福も与えてくださいました。
スワンに引っ越しして来てまもなく、主日の昼に用事があって1部礼拝に参席するため家の前の道路に立てタクシーを待っている時に車が 非常灯をまたたくして止まりました。
調べてみたらうちの教会の聖徒が朝早く私のように教会に行く途中、区域長のかばんを持っている私を発見したのです。暗くて怖かった時に執事が助けてくださって本当に感謝でした。
スワンで引っ越しをする前教区長が家に来たが誰もいなくで"「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を大いに増やす」と言われました。”（ヘブライ人への手紙6：14）御言葉と 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ41：10）は御言葉を書いて扉に貼って帰りました。この御言葉を新しい家に引っ越しする私に神様がくださった御言葉と思って聖書の表紙に貼ってよく黙想しました。引っ越しした後、子供が通う小学校属しているの幼稚園が家から遠くて心配になり不安になりました。しかし、そのときことにこの御言葉を聴いて祈ると不安がなくなり、主がくださる平安が来ました。わついの全てを知る神様があらかじめ御言葉を下さって御言葉の権能と信仰の大胆さで勝つようにしてくださったのです。
その時また、様々な苦しみの事がありますが、牧師は悲しみ、疑い、落胆、怒りを対処する秘訣を続けて説教してくださって教訓になり感謝しました。
最近は特に黙想して神様に感謝する御言葉は" 神は人ではないから、偽ることはない。人の子ではないから、悔いることはない。言われたことを、なされないことがあろうか。告げられたことを、成就されないことがあろうか。”（ 民数記23章19節）です。区域のリバイバルと家族の救いのため職場に来る人々に熱心に福音を伝えたら神様は区域をリバイバルをさせてくださり、兄嫁といとこの嫁を恵みと真理教会に導いてお互いに主のため働くようにしてくださいました。
なかなか、心を開かなかった旦那を見ながら子供の時から信仰の教育がまことに大事だと思って息子は主の子供として主のため働く人のように熱心に祈りました。そうしたら、神様は息子に大きい愛を与えてくださり、小学校の時から今軍隊の中でも熱心に聖歌隊で奉仕するようにめぐみをくださいました。今年大学を卒業する息子の就職と結婚も神様が予備してくださることを希望しています。私がもっとも神様に感謝するのは、固かった旦那の心を変化して救ってくださって神様を畏れる生活をするようになりました。これからは旦那に強い信仰を下さって主に献身する聖徒になるように一千教会成立のビジョンに用いられるように祈っています。神様は私たちの家庭に経済的な福も与えてくださって去年、商家を建てました。教会にも近くて事業も良くできるように良い場所を与えてくださいました。神様の恵みに感謝し、この新しい家で旦那が聖徒達と共に区域礼拝を捧げる姿を信仰と希望して切に祈っています。
私を選んでくださり神様の子供として天国の市民になって永遠な命を与えて享受するようにしてくださって感謝します。また、首区域長や教師や聖歌隊員など様々な職分を下さって神霊な体験をしてくださった事も感謝します。恵みと真理で充満な恵みと真理教会で聖徒達を仕えるようにして私の魂を豊かにしてくれる当会長の牧師を立ててくださった主に感謝します。当会長の牧師がもっと健康になって長く尊い説教を聴いて信仰生活をするように祈ります。ハレルヤ！

［信仰コラム］　キリストの中で患難が生み出すこと

"それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。"（ローマ書 5：3、4）

一生の間患難を受けずに生活できる人はいません。聖書は聖徒達に患難に対処する方法を詳しく教えています。そして、その方法通りに行動する人には患難が意味のある結果を生み出すということを知らせています。
第一、聖徒達には患難が希望を生み出すと約束されています。ローマ書 5 章 3 節と 4 節に"それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。"と記録されています。イエスキリストを信じて神様との関係が回復された人々だとしてもこの世で生きる間には患難を受けます。むしろ、信仰によって受ける患難まで経験するようになります。しかし、いかなる種類の患難であっても聖徒達を落胆させることはできません。聖徒達は聖霊様の助けを受けて患難を耐えて勝ち抜くことができます。患難を通じて練達され信仰がより強くなり純粋になります。患難は私達の肉親と現実生活に苦痛や損失を与えるが聖徒達はそれによって天国望み、復活望みがより強烈になります。このような望みが私達を恥ずかしくないようにする保障があります。私達に注がれた神様の愛がその保証であります。イエス様が送りなさった聖霊様が神様の愛を私達の心に注がられました。患難が聖徒達を絶望させるどころか却って、望みを生産する役割をします。
第二、聖徒達には患難が光栄を生み出すという約束があります。
コリントの信徒への手紙二 4 章 17 節に"なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。"と記録されています。患難は大体心配、恐れ、悲しみ、不便、喪失、苦痛、別れのようなことを随伴します。従って、患難という言葉には"軽い"という形容詞が不適切だということをご存じでしょう。しかし使徒パウルは"軽い患難"と話しました。私達が受ける患難は我が主イエスキリストが私達を救うために受かれた苦難に敢えて比較することができないからです。私達が患難を指して"軽い患難"だと確信を持って話すようになる理由がもう一つあります。私達が受ける患難は将来に享受する光栄と比較にならないからです。イエスキリストを信じるから、主の事に熱心を尽くすから、福音を述べ伝えるから受ける損失、犠牲、逼迫等の患難は"キリストと共に受ける患難"だという驚くべきで光栄である意味があります。その光栄がいかに大きくて恵みぶかいことであるかはこの世の何をもっても比較したり表現することができません。私達がこの世で長い間患難を受けても天国で享受する永遠な光栄に比べると誠に短い瞬間に過ぎません。キリストの中で受ける患難には無意味なことがありません。神様を敬って主に仕える中で受ける患難は必ず比較もできない大きくて永遠な光栄を生み出します。
第三、聖徒達には患難が益を生み出すという約束があります。ローマ書 8 章 28 節に"神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。"と記録されています。"万事を益となるようにして下さる"というお言葉には一、聖徒達が経験するようになる大小の困難と患難がこの世で有益で良い結果を生み出すという意味があります。二、聖徒達が経験する困難や患難が信仰生活の発展を生み出すという意味があります。神様の国が臨むのを懇切に願って慕うようになり、神様の助けをより頼って求めるようになるので結局万事を益となるようになります。三、聖徒達が経験する危機、困難、患難それが難であれ将来には益を生み出すという意味があります。
神様が誰にでも万事を益となるようにして下さるのではありません。その対象が指定されています。"神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たち"だとしました。イエスキリストだけが救い主だと信じる人は神様の愛を被った人でありまた、神様を愛する人であります。彼らには万事を益となるようになる時が必ず迫るでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様の武具を身につけなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスチャンは戦闘する人です。 その戦闘は霊的なけんかです。 悪魔を対敵するけんかです。 だから私たちは悪魔の正体と活動に対して分からなければなりません。 ここに対する情報は聖書に啓示されています。 悪魔はヘブライ語で ‘サタンです。 聖書に多くの名称でサタンの位置と性格を暗示しています。 試す者、悪い者、讒訴する者、対敵、偽りの父、この世の中の神、人殺しした者、この世の中の王、空の権勢を取った者、鬼の王であると言いました。

今日の本文には悪魔とその使者に関して啓示するのを “わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。”（エペソ人への手紙 6:12）としました。 このお言葉に現われている悪魔とその使者の正体はこのようです。 第一、血と肉を持った存在ではない霊的な存在です。 第二、悪魔は権勢と能力と策略を持って組織的にこの世を支配しています。 第三、悪魔とその使者は邪悪な存在です。
悪魔が活動する究極的な目的は自分が神様のように礼拝を受けようとするのです。 これのためにすべての方法を動員して人々を欺いています。 悪魔はあらゆる計策で人々がまことらしい神様が分からないようにします。 人々がいつわりでむなしい思想と宗教を作らせてこれを従うように惑っています。 人々がイエスキリストによる救いの福音をきくことができずに信じないしようと妨げながら異端の言葉から福音を混雑させます。 教会を無くしてクリスチャンを滅絶させる仕事をする国家体制を作るように作用します。 独裁政治の体制と共産主義の政治の体制は悪魔の作品です。 北朝鮮の地に教会が全然ないことがその代表的な証拠です。
悪魔とその使者は彼らの終末が来るまで休まないで人々を攻撃します。 滅亡に至るようにするために攻撃します。 特に聖徒を集中的に攻撃します。 悪魔はすべての面で人より強い存在です。 人間の知恵と力では悪魔の計りを勝つことができないです。 悪魔は見下げる対象ではないです。 強くて狡いです。 私たちの弱点を乗じて攻撃します。
どのようにすれば私たちが悪魔の計りを充分に対敵することができますか? その解答が本文にあります。 “最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。”（エペソ人への手紙 6:10,11）としました。 そして神様の武具が何やらか次のように記録しました。 “それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。 すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、 平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。”（エペソ人への手紙 6:13～17）。
悪い悪魔がいくら鳴く獅子のように暴れ狂ってあらゆる萱恤で攻撃しても神様の武具で武装すれば充分に勝つことができます。 神様の武具を取るのにあって どんな資格や財物が必要ではないです。 主の中にいる人は神様の武具で武装することができます。 防御と攻撃のための武器が六種です。 神様の武具の中その一つでもおろそかに思ってはいけないです。

第一は、 真理の帯を腰にしめなさいと言いました。
腰巻は身を縛り上げるようであるが実際では身を自由で力が強く活動するようにしてくれます。 ‘真理の腰巻’と言いました。 聖書に記録された神様のお言葉が真理です。 神様のお言葉の中心の生活をしなさいという意味です。 またイエス様が真理です。 “私がすなわち道であり 真理であり 命である。” とイエス様がおっしゃいました。 イエスキリストが私たちの生の中心にいらっしゃるようにしなければなりません。

二番目は、 正義の胸当を胸に付けなさいと言いました。
胸当はよろいの胸の方に付ける銅切れで胸を保護する役目をします。 鋭い矛と剣の攻撃で心臓を保護することができます。 胸は良心を意味します。 悪魔は聖徒の良心を讒訴の小剣で攻撃します。 罪責感、定罪意識、救いに対する不安で怪我をさせます。 “しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。”（ローマ人への手紙 3:21,22）としました。 神様がくださった義ではなければ悪魔の讒訴を阻むことができないです。 悪魔の讒訴を受けなければ誰でもイエスキリストによる神様の義の胸当を着用しなければなりません。

三番目は、 平和の福音の備えを足には靴をはかなければなりません。
ローマが世界を支配した当時ローマ軍人の靴が卓越で平安に行軍して戦闘することができました。 悪魔の計りを充分に対敵するためには私たちがはかなければならない靴は ‘平安の福音の靴です。 イエスキリストの福音は平安の福音です。 イエス様は弟子におっしゃるのを “わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。”（ヨハネによる福音書 14:27）しました。 茨の道、険しい道が多い人生を暮しながらひょっとすれば心霊が傷つきやすいです。 悪魔はこの時に攻撃を敢行します。 だから聖徒の皆さんは必ず平安の福音の靴をはいて行進なさってください。

四番目は、信仰のたてを手に取りなさい。
盾は火の矢を阻む役目をします。 悪魔の火の矢には疑心を火の矢を付ける矢があります。 疑心の火の矢を阻むことができなければいちめん炎に包まれるようになります。 悪魔はイエス様にもこんな方法に近付きました。（マタイによる福音書 4:1～7）キリストが 四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。 イエスは答えて言われた、「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」。 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて 言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんなさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。 イエスは彼に言われた、「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」。” としました。 悪魔は重ねてイエス様に “もしあなたが神の子であるなら”という疑心の 火の矢として攻撃しました。 イエス様は聖書に記録された神様のお言葉をそのまま信じる信仰の盾としてサタンの火の矢を消滅させてしまいました。 神様のお言葉をそのまま信じてください。 そして大きい盾になってください。

五番目は、救いのかぶとをかぶらなければなりません
かぶとは頭を保護する役目をします。
救いのかぶとと言いました。 皆さんの頭を救いの考えで満たさなければなりません。 イエスキリストのあがないによる健康と命と豊かと勝利と永生と復活と天国に関する考えで一杯になさってください。

六番目は、聖霊の剣を持たなければなりません。
剣は攻撃武器です。 神様のお言葉は聖霊の剣です。 ヘブル人への手紙,4 章 12 節に記録されるのを “というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と霊魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。” しました。 イエス様は悪魔の試験を受ける時 “記録されるが”とおっしゃいました。 聖書に記録されたお言葉のかけることで悪魔の心臓を突きました。 神様のお言葉の剣はさび掃かないです。

以上の六種の神様の武具で武装するが祈ることを加えなければなりません。
“絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。”（エペソ人への手紙 6:18)と言いました。
個人祈り、合心祈り、黙想祈り、通声祈り、禁食祈り、集中祈り、作定祈り、生活化された祈祷をしなければなりません。 切実に祈らなければなりません。 聖霊にあって祈りなさいと言いました。 異言祈祷をしてください。 コリント人への第一の手紙 14 章に記録されるのを “異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである。”（コリント人への第一の手紙 14:2）しました。 聖霊の助けを頼って祈ってください。 ローマ人への手紙 8 章 26 節に “御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。”と記録されました。 これのために気を付けて祈祷に力をつくしなさいと言いました。 自分だけのために祈るのではなく多くの聖徒のために祈りなさいと言いました。

多くの人々が悪魔の存在を認めないとかあるいは悪魔はしっぽと角があって鉄もりを持った神話的な存在と思うとか、悪魔は人々にあしたを占ってくれるなんかの親しい霊的存在で誤解しています。 聖書は悪魔の正体を確かに現わしています。 悪魔と彼の使者は聖徒の対敵というのを明らかに啓示しました。 だけでなく悪魔との霊的けんかで充分に勝つことができさせる対策を啓示してくださいました。 聖徒の皆さんは神様の武具で武装するがすべての祈祷として悪魔の計りを充分に退けて日々に勝利するように願いします。